



りりしい舞で悪疫退散

由来

御八日踊りは、島主・島津忠兼が1565年に謀殺された後、悪病が流行したことから、命日の旧暦7月8日に霊を慰め、悪疫退散を祈って奉納したのが始まりとされています。

ながしまひょっとこ会の踊り
(川床集落若宮神社)



本町の伝統行事である御八日踊りが8月8日、町内の神社や集落で繰り広げられました。朝、各神社で神事が執り行われた後、各地区に伝承されている鉦踊りや棒踊り、手踊りなど多彩な舞が披露されました。町内は鐘や太鼓の音とともに祭り一色となりました。忠兼公をまつる若宮神社がある城川内地区の堂崎城跡では、正午から各地区の踊り子たちが次から次に、汗だくになりながら勇壮な舞を披露し、集まった観覧者からたくさんのお声や拍手に包まれ活気に溢れました。鹿児島市から御八日踊りの観

町内一円で御八日踊り

覧に来たかたは「御八日踊りに魅了され、毎年、見に来て、今年も力強い踊りが見れて嬉しい」と笑顔で話しました。鷹巣種子島踊り保存会は、同地区の八幡神社から、商店街など最多の20会場で舞を披露しました。同保存会会長の児玉広大さん(本町)は「総勢45人で今年も無事に奉納させて頂いた。今後この踊りを継承していきたい」と充実した様子で話しました。



浦底鉦踊り保存会による鉦踊り
(薄井漁港)

指江子ども育成会による手踊り
(城川内集落若宮神社)



鷹巣種子島踊り保存会による鉦踊り
(宮ノ浦港)